

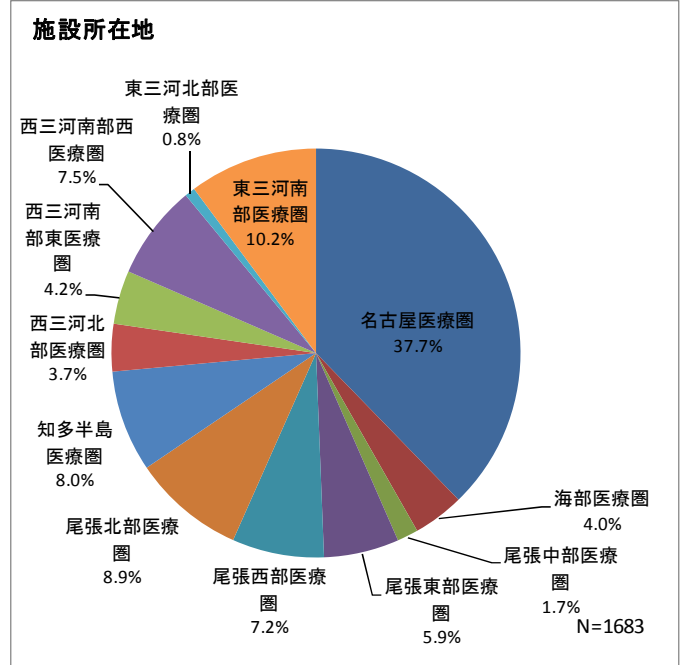
調査票 A

(診療所・在宅療養支援病院)

施設の概況

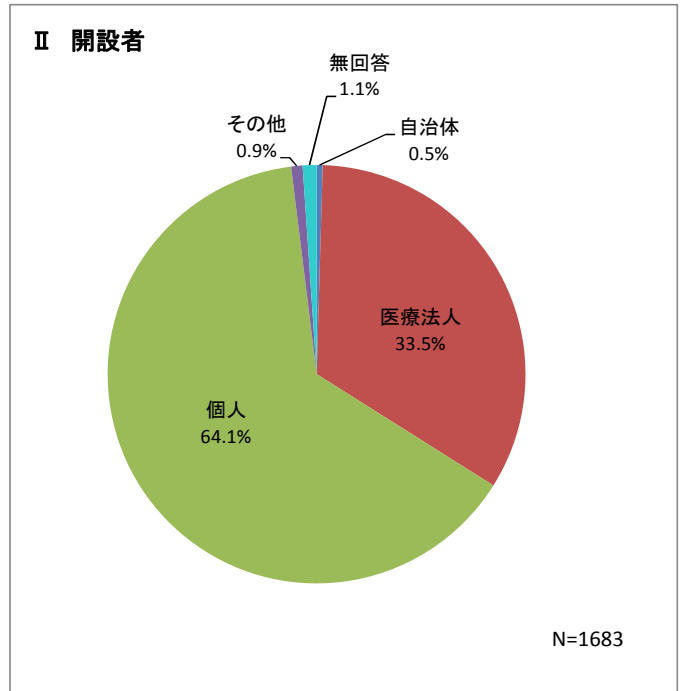
I 所在地

所在地	回収件数	
名古屋医療圏	635	37.7%
海部医療圏	68	4.0%
尾張中部医療圏	28	1.7%
尾張東部医療圏	100	5.9%
尾張西部医療圏	122	7.2%
尾張北部医療圏	150	8.9%
知多半島医療圏	135	8.0%
西三河北部医療圏	63	3.7%
西三河南部東医療圏	71	4.2%
西三河南部西医療圏	126	7.5%
東三河北部医療圏	14	0.8%
東三河南部医療圏	171	10.2%



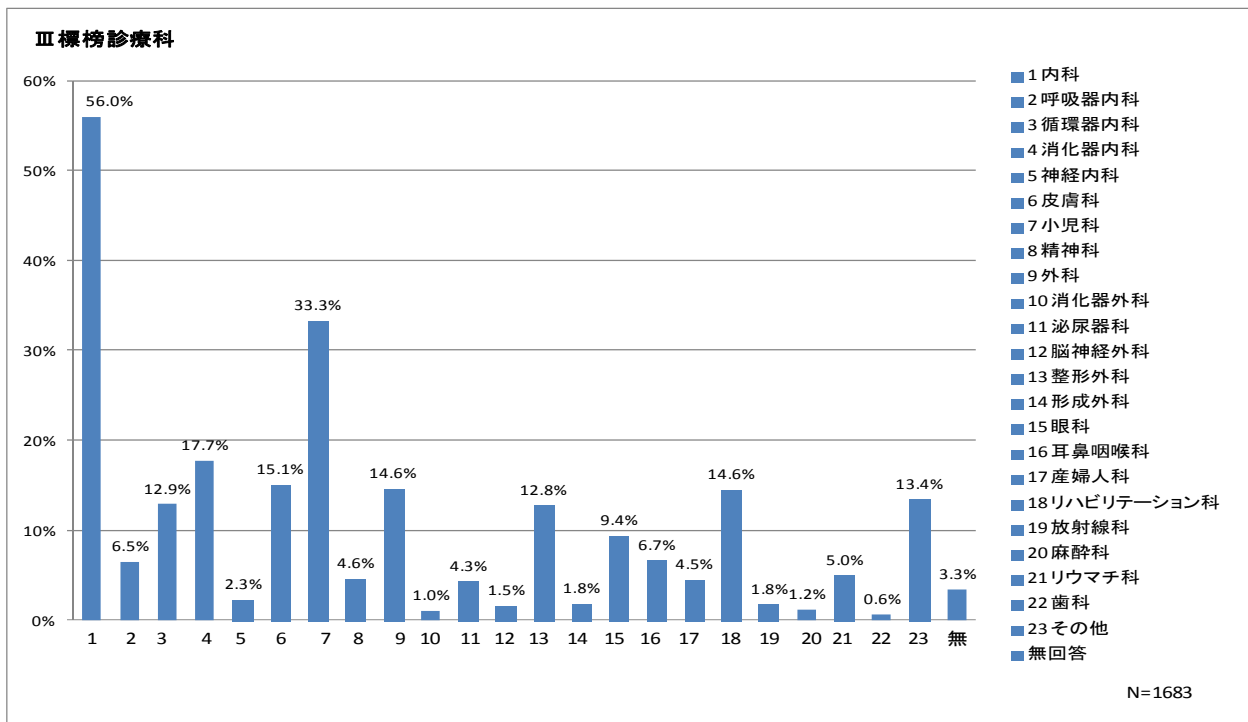
II 開設者

開設者	回収件数	割合
自治体	8	0.5%
医療法人	563	33.5%
個人	1,079	64.1%
その他	15	0.9%
無回答	18	1.1%



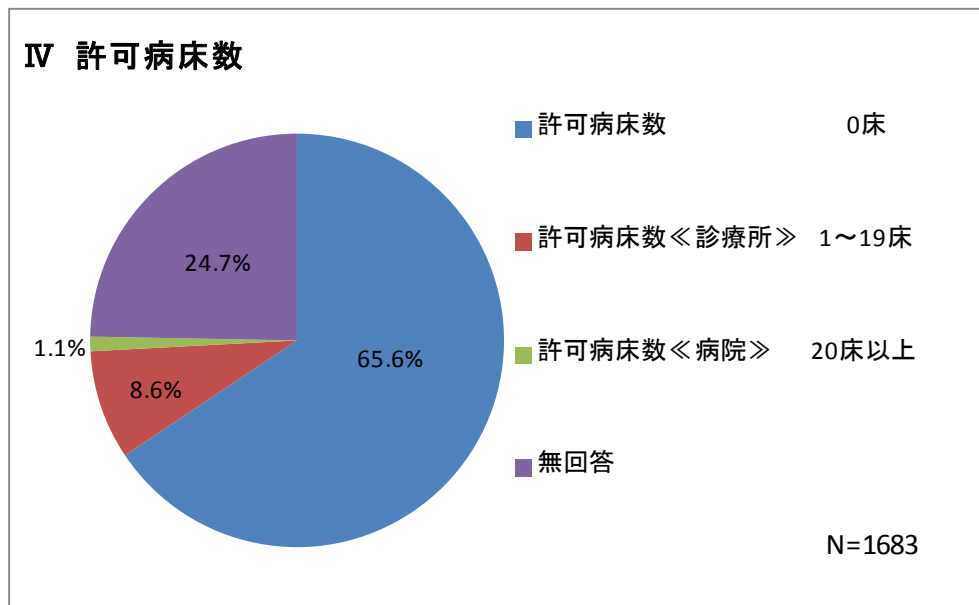
Ⅲ 標榜診療科

対象数	1,683	
1 内科	942	56.0%
2 呼吸器内科	109	6.5%
3 循環器内科	217	12.9%
4 消化器内科	298	17.7%
5 神経内科	38	2.3%
6 皮膚科	254	15.1%
7 小児科	560	33.3%
8 精神科	77	4.6%
9 外科	246	14.6%
10 消化器外科	17	1.0%
11 泌尿器科	72	4.3%
12 脳神経外科	26	1.5%
13 整形外科	215	12.8%
14 形成外科	31	1.8%
15 眼科	158	9.4%
16 耳鼻咽喉科	112	6.7%
17 産婦人科	75	4.5%
18 リハビリテーション科	245	14.6%
19 放射線科	30	1.8%
20 麻酔科	20	1.2%
21 リウマチ科	84	5.0%
22 歯科	10	0.6%
23 その他	226	13.4%
無回答	56	3.3%



IV 許可病床数

対象数		1,683	
許可病床数	0床	1,104	65.6%
許可病床数<<診療所>>	1~19床	144	8.6%
許可病床数<<病院>>	20床以上	19	1.1%
無回答		416	24.7%

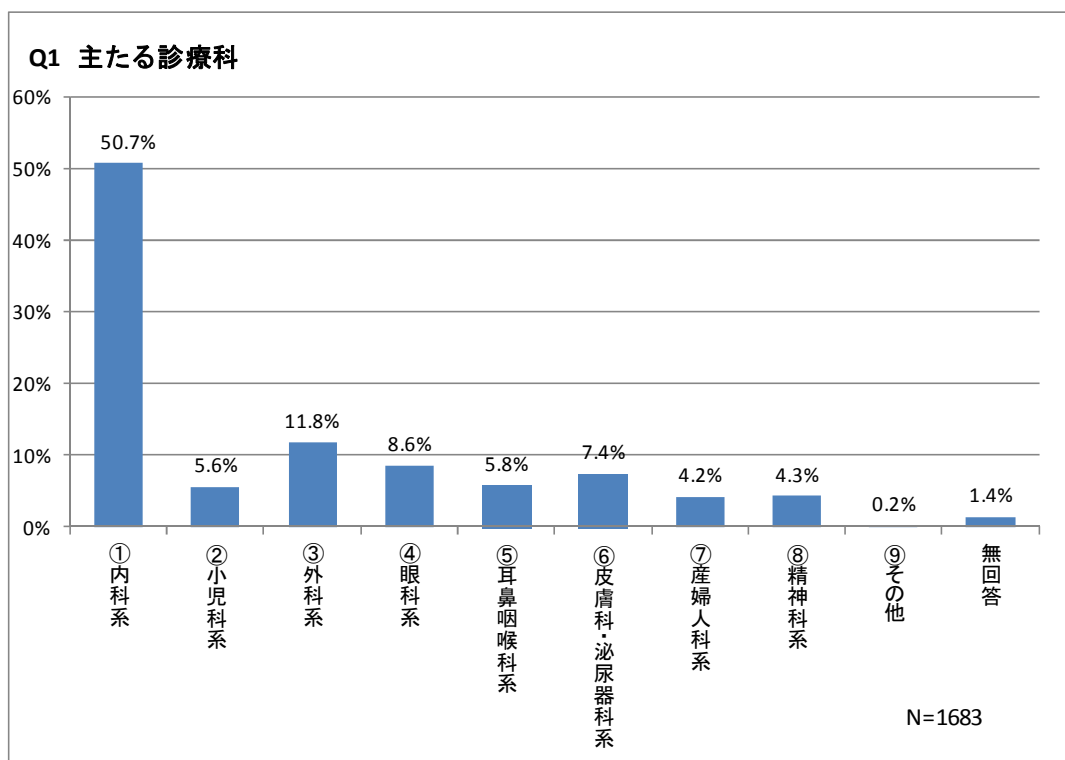


回答集計

○ 主たる診療科について

Q1 貴施設の主たる診療科（保険請求割合の最も大きい診療科）は何ですか。

対象数	1,683	
①内科系	853	50.7%
②小児科系	95	5.6%
③外科系	198	11.8%
④眼科系	144	8.6%
⑤耳鼻咽喉科系	98	5.8%
⑥皮膚科・泌尿器科系	125	7.4%
⑦産婦人科系	71	4.2%
⑧精神科系	72	4.3%
⑨その他	3	0.2%
無回答	24	1.4%



主たる診療科は、「内科系」が50.7%、次いで「外科系」が11.8%、「眼科系」が8.6%となった。

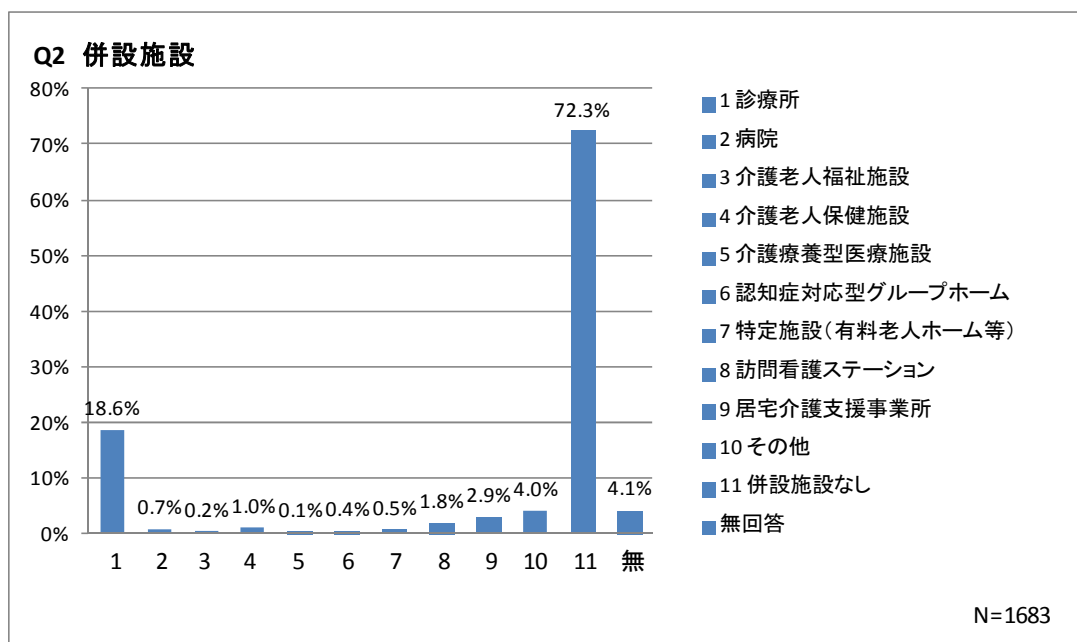
(注) 主たる診療科の分類について

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| ①内科系・・・内科、消化器科、胃腸科、循環器科等 | ②小児科系・・・小児科、小児外科、小児歯科等 |
| ③外科系・・・外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科等 | ④眼科系・・・眼科 |
| ⑤耳鼻咽喉科系・・・耳鼻咽喉科、気管食道科 | ⑥皮膚科・泌尿器科系・・・皮膚科、泌尿器科等 |
| ⑦産婦人科系・・・産婦人科、産科、婦人科 | ⑧精神科系・・・心療内科、精神科、神経科 |

○ 併設施設について

Q2 貴施設と同一の開設者または系列の法人が、同一建物内、同一敷地内、隣接敷地内に併設している施設・事業所はありますか。（複数回答可）

対象数	1,683	
1 診療所	313	18.6%
2 病院	12	0.7%
3 介護老人福祉施設	4	0.2%
4 介護老人保健施設	16	1.0%
5 介護療養型医療施設	2	0.1%
6 認知症対応型グループホーム	6	0.4%
7 特定施設(有料老人ホーム等)	9	0.5%
8 訪問看護ステーション	30	1.8%
9 居宅介護支援事業所	48	2.9%
10 その他	68	4.0%
11 併設施設なし	1,217	72.3%
無回答	69	4.1%



併設している施設・事業所では、「併設施設なし」が72.3%、次いで「診療所」18.6%となった。

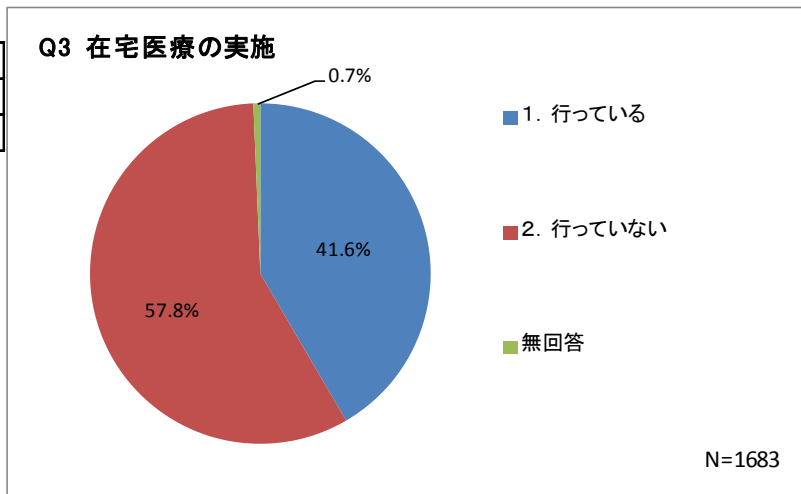
○ 在宅医療の実施について

Q3 訪問診療（診療計画に基づいて実施）や往診（体調急変時など緊急の連絡に対応）などの在宅医療を実施していますか。

* 在宅医療…医療法第30条の4第2項第6号「居宅等における医療」を指す。

- 1 行っている → Q4～9も回答
- 2 行っていない → Q10～11も回答

対象数	1,683	
1. 行っている	700	41.6%
2. 行っていない	972	57.8%
無回答	11	0.7%

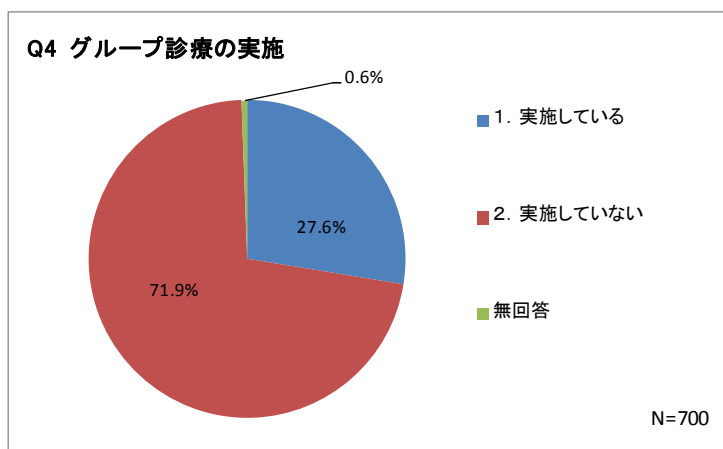


在宅医療の実施について、「行っていない」が57.8%、「行っている」が41.6%、となった。

Q4 【Q3で1と回答したところのみ】

緊急往診体制の確保のため、地域の他の医療機関と連携するなど、グループ診療を実施していますか。

対象数	700	
1. 実施している	193	27.6%
2. 実施していない	503	71.9%
無回答	4	0.6%

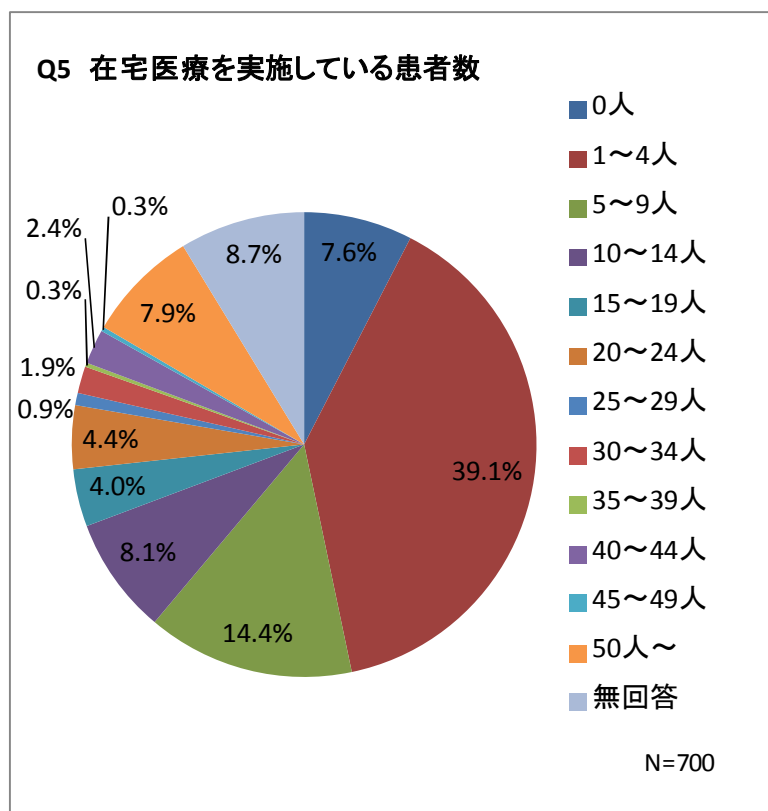


グループ診療の実施について、「実施していない」が71.9%、「実施している」27.6%となった。

Q5 【Q3で1と回答したところのみ】

貴施設において、在宅医療を実施している患者数は何人ですか。

対象数	700	
0人	53	7.6%
1～4人	274	39.1%
5～9人	101	14.4%
10～14人	57	8.1%
15～19人	28	4.0%
20～24人	31	4.4%
25～29人	6	0.9%
30～34人	13	1.9%
35～39人	2	0.3%
40～44人	17	2.4%
45～49人	2	0.3%
50人～	55	7.9%
無回答	61	8.7%

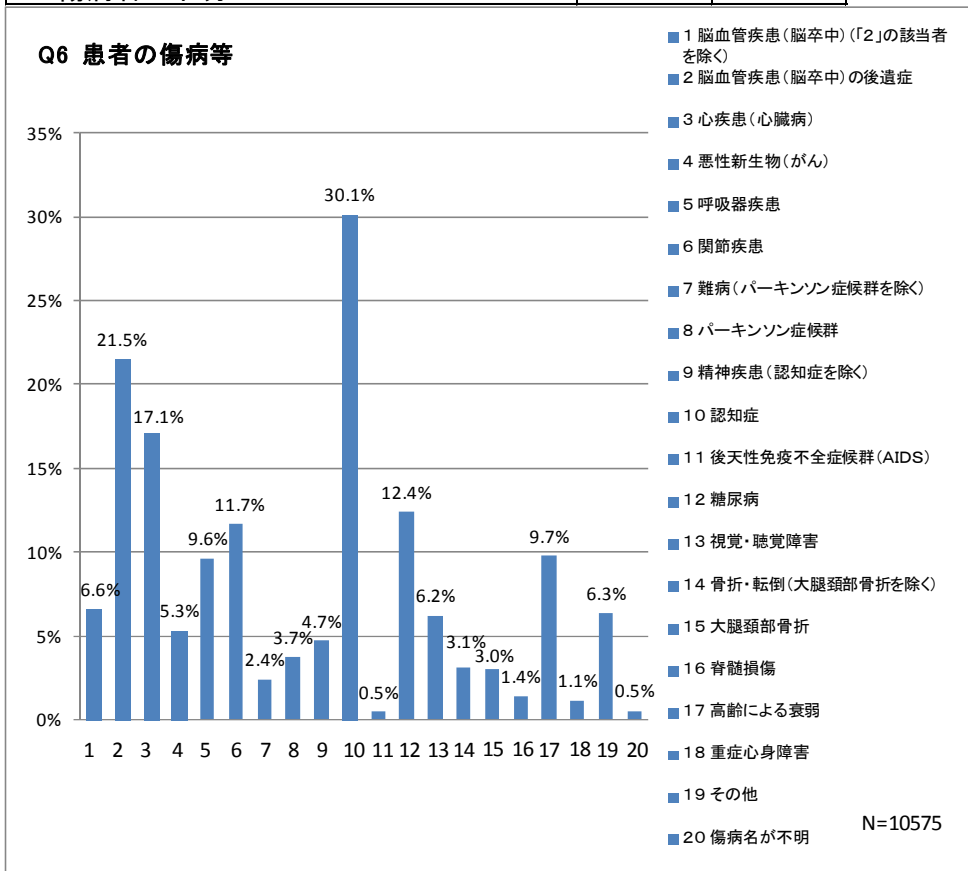


在宅医療を実施している患者数は、「1～4人」が39.1%で最も多く、次いで「5～9人」が14.4%、「10～14人」が8.1%となった。

Q6 【Q3で1と回答したところのみ】

Q5でお聞きした、在宅医療を実施している患者の傷病等（重複可）は何ですか。傷病ごとに延べ人数を記入してください。

対象数	10,575	
1 脳血管疾患(脳卒中)（「2」の該当者を除く）	696	6.6%
2 脳血管疾患(脳卒中)の後遺症	2,275	21.5%
3 心疾患(心臓病)	1,811	17.1%
4 悪性新生物(がん)	562	5.3%
5 呼吸器疾患	1,017	9.6%
6 関節疾患	1,232	11.7%
7 難病(パーキンソン症候群を除く)	256	2.4%
8 パーキンソン症候群	395	3.7%
9 精神疾患(認知症を除く)	496	4.7%
10 認知症	3,186	30.1%
11 後天性免疫不全症候群(AIDS)	48	0.5%
12 糖尿病	1,307	12.4%
13 視覚・聴覚障害	656	6.2%
14 骨折・転倒(大腿頸部骨折を除く)	328	3.1%
15 大腿頸部骨折	320	3.0%
16 脊髄損傷	145	1.4%
17 高齢による衰弱	1,031	9.7%
18 重症心身障害	121	1.1%
19 その他	668	6.3%
20 傷病名が不明	55	0.5%



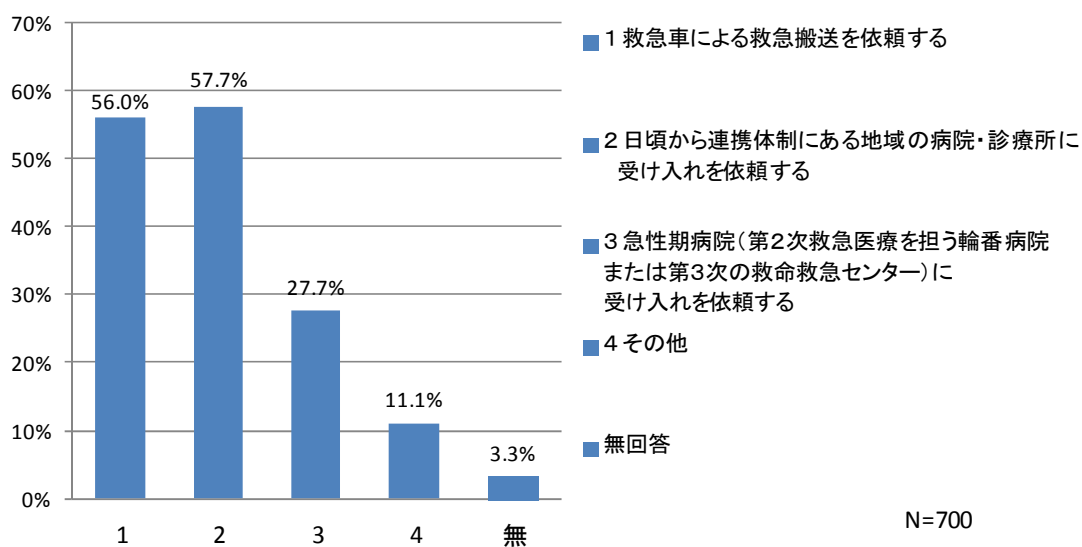
在宅医療を実施している患者の傷病等の述べ人数では、「認知症」が30.1%で最も多く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）の後遺症」が21.5%、「心疾患（心臓病）」が17.1%となった。

Q7 【Q3で1と回答したところのみ】

在宅で診ている患者の急性増悪時の対応はどのようにしていますか。（複数回答可）

対象数	700	
1 救急車による救急搬送を依頼する	392	56.0%
2 日頃から連携体制にある地域の病院・診療所に受け入れを依頼する	404	57.7%
3 急性期病院（第2次救急医療を担う輪番病院または第3次の救命救急センター）に受け入れを依頼する	194	27.7%
4 その他	78	11.1%
無回答	23	3.3%

Q7 急性増悪時の対応



在宅で診ている患者の急性増悪時の対応では、「日頃から連携体制にある地域の病院・診療所に受け入れを依頼する」が 57.7%、次いで「救急車による救急搬送を依頼する」が 56.0%、「急性期病院（第2次救急医療を担う輪番病院または第3次の救命救急センター）に受け入れを依頼する」が 27.7%となった。

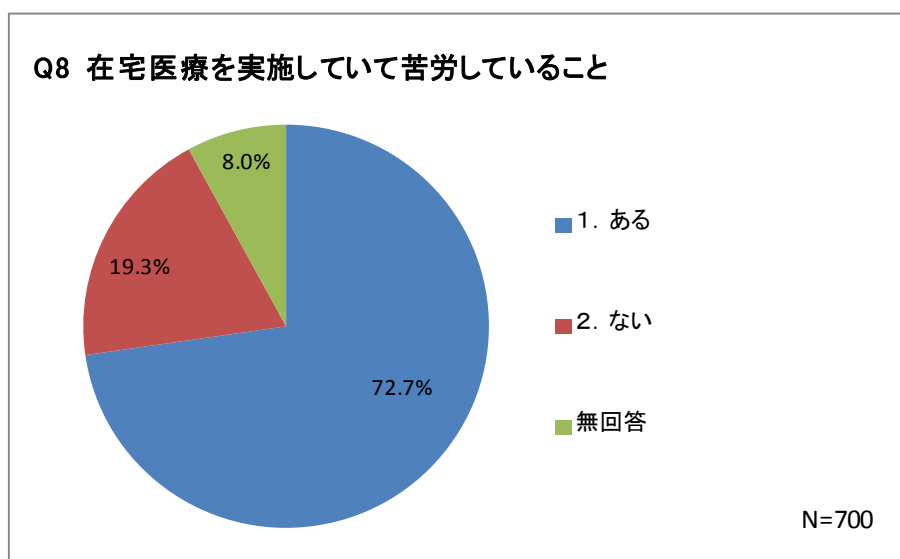
Q8 【Q3で1と回答したところのみ】

在宅医療を実施していて苦労していることはありますか。

ある場合は、どんなことに苦労していますか。（複数回答可）

<苦労の有無>

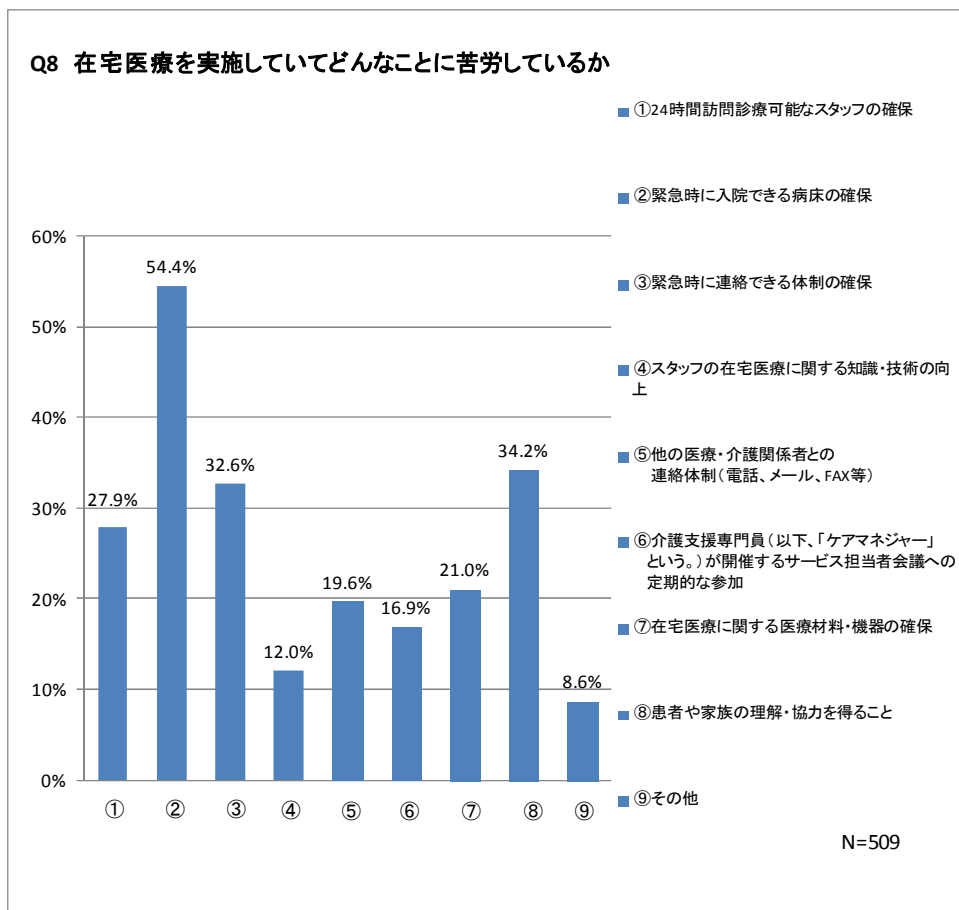
対象数	700	
1. ある	509	72.7%
2. ない	135	19.3%
無回答	56	8.0%



在宅医療を実施していて苦労していることでは、「ある」が72.7%、「ない」が19.3%となった。

<苦労の内容>

対象数	509	
①24時間訪問診療可能なスタッフの確保	142	27.9%
②緊急時に入院できる病床の確保	277	54.4%
③緊急時に連絡できる体制の確保	166	32.6%
④スタッフの在宅医療に関する知識・技術の向上	61	12.0%
⑤他の医療・介護関係者との連絡体制(電話、メール、FAX等)	100	19.6%
⑥介護支援専門員(以下、「ケアマネジャー」という。)が開催するサービス担当者会議への定期的な参加	86	16.9%
⑦在宅医療に関する医療材料・機器の確保	107	21.0%
⑧患者や家族の理解・協力を得ること	174	34.2%
⑨その他	44	8.6%



在宅医療を実施していて苦労している点については、「緊急時に入院できる病床の確保」が54.4%で最も多く、次いで「患者や家族の理解・協力を得ること」が34.2%、「緊急時に連絡できる体制の確保」が32.6%となった。

○施設基準の届出状況及び届出区分について

Q9 【Q3で1と回答したところのみ】

施設基準の届出状況を1つ選んでください。

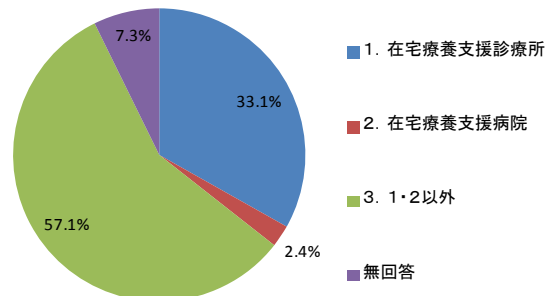
また、届出している場合は、届出区分に○をつけてください。

届出していない場合は、その理由を記入してください(自由記載)。

<届出状況>

対象数	700	
1. 在宅療養支援診療所	232	33.1%
2. 在宅療養支援病院	17	2.4%
3. 1・2以外	400	57.1%
無回答	51	7.3%

Q9 施設基準の届出状況について

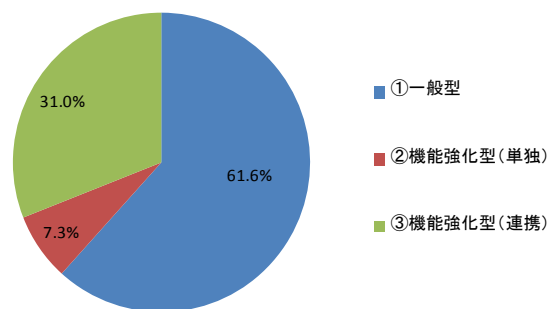


N=700

<1. 在宅療養支援診療所の区分>

対象数	232	
①一般型	143	61.6%
②機能強化型(単独)	17	7.3%
③機能強化型(連携)	72	31.0%

Q9_1 届出状況 在宅療養支援診療所

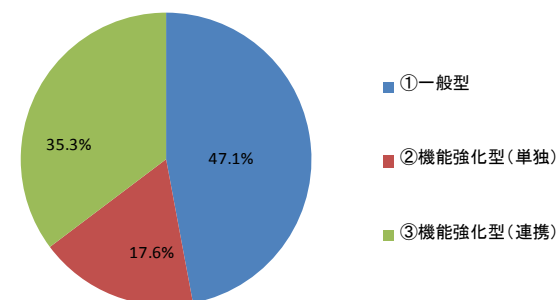


N=222

<2. 在宅療養支援病院の区分>

対象数	17	
①一般型	8	47.1%
②機能強化型(単独)	3	17.6%
③機能強化型(連携)	6	35.3%

Q9_2 届出状況 在宅療養支援病院



N=25

<3. 届け出ていない理由>

主な意見	件数
24時間の対応が難しいため	92
そこまで在宅医療をやるつもりはない	38
届出に必要な基準を満たしていないため	32
スタッフを確保できないため	32
患者が少ないため	31
届出が面倒・必要性を感じない	24
必要な体制を確保できないため	18
高齢のため・体力に不安があるため	17
医師1人では無理なため	9
患者の負担が増えるため	6

<実施していない理由 「9. その他」の内容>

主な意見	件数
診療科が在宅医療になじまないため	68
時間がない・余裕がないため	47
高齢のため・体力に不安があるため	38
その気がないため	8
在宅医療の知識がない・専門外のため	6
自宅と診療所が離れているため	2
その他	22

<主たる診療科系別クロス集計>

		内科系	小児科系	外科系	眼科系	耳鼻咽喉科系	泌尿器科系・皮膚科系	産婦人科系	精神科系	その他
対象数	972件	314件	83件	129件	120件	87件	92件	68件	65件	2件
1 対象となる患者がいない	421件	20.7%	78.3%	33.3%	50.0%	58.6%	48.9%	79.4%	50.8%	100.0%
2 対象となる患者はいるが、場所が遠くて対応できない	18件	2.5%	1.2%	0.0%	0.8%	1.1%	2.2%	1.5%	6.2%	0.0%
3 地域に在宅医療を実施している病院・診療所がなく、連携体制が取れない	18件	3.2%	0.0%	3.1%	0.0%	1.1%	1.1%	1.5%	1.5%	0.0%
4 緊急時(昼間及び夜間)に対応可能なスタッフを確保できない	446件	58.3%	28.9%	55.0%	27.5%	49.4%	52.2%	14.7%	49.2%	0.0%
5 緊急時(昼間及び夜間)の連絡が可能となる体制を確保できない	306件	39.2%	22.9%	43.4%	15.0%	35.6%	31.5%	8.8%	33.8%	0.0%
6 緊急時に連携ができる病院・診療所が周りにない	25件	1.6%	3.6%	0.8%	1.7%	2.3%	2.2%	1.5%	12.3%	0.0%
7 訪問看護ステーションとの連携が取れない	26件	2.5%	4.8%	2.3%	2.5%	2.3%	2.2%	2.9%	1.5%	0.0%
8 看取りの対応ができない	189件	28.3%	6.0%	21.7%	12.5%	19.5%	25.0%	5.9%	9.2%	0.0%
9 その他	198件	26.4%	14.5%	17.1%	22.5%	11.5%	17.4%	17.6%	16.9%	0.0%

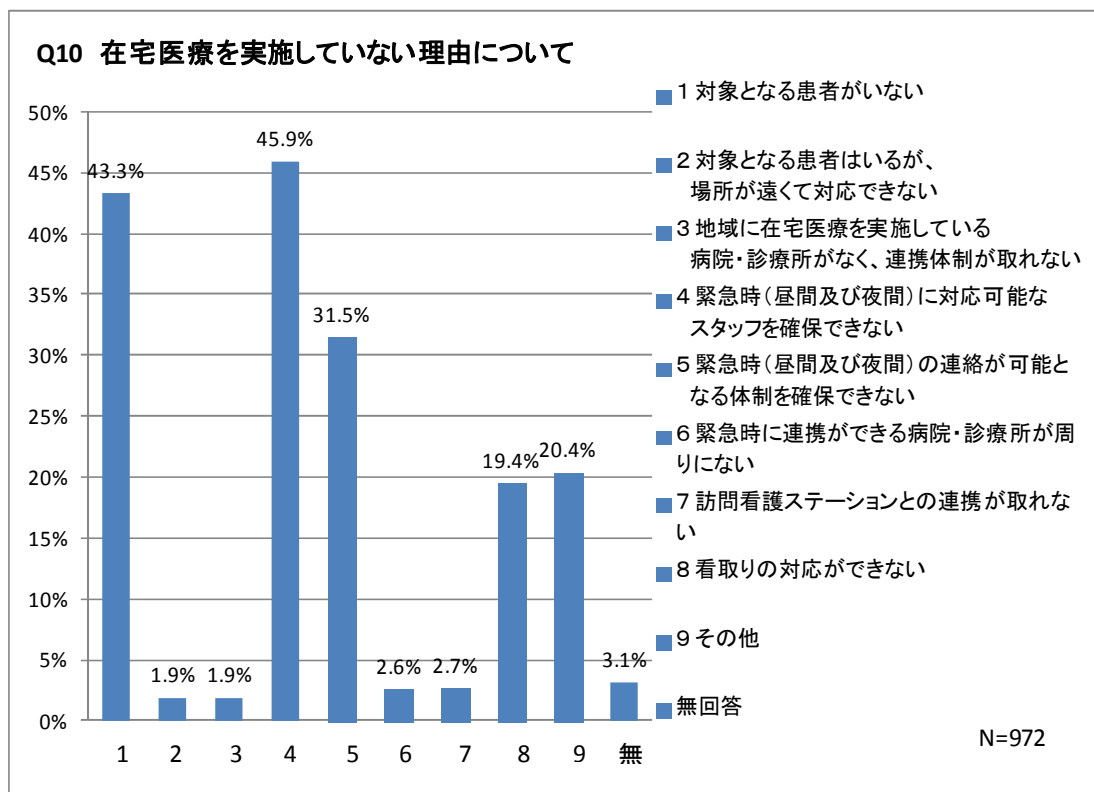
○在宅医療を実施していない理由について

Q10 【Q3で2と回答したところのみ】

訪問診療や往診などの在宅医療を実施していない理由は何ですか。

(複数回答可)

対象数	972	
1 対象となる患者がいない	421	43.3%
2 対象となる患者はいるが、 場所が遠くて対応できない	18	1.9%
3 地域に在宅医療を実施している 病院・診療所がなく、連携体制が取れない	18	1.9%
4 緊急時(昼間及び夜間)に対応可能な スタッフを確保できない	446	45.9%
5 緊急時(昼間及び夜間)の連絡が可能と なる体制を確保できない	306	31.5%
6 緊急時に連携ができる病院・診療所が周りにない	25	2.6%
7 訪問看護ステーションとの連携が取れない	26	2.7%
8 看取りの対応ができない	189	19.4%
9 その他	198	20.4%
無回答	30	3.1%



在宅医療を実施していない理由では、「緊急時（昼間及び夜間）に対応可能なスタッフを確保できない」が45.9%、次いで「対象となる患者がいない」が43.3%、「緊急時（昼間及び夜間）の連絡が可能となる体制を確保できない」が31.5%となった。

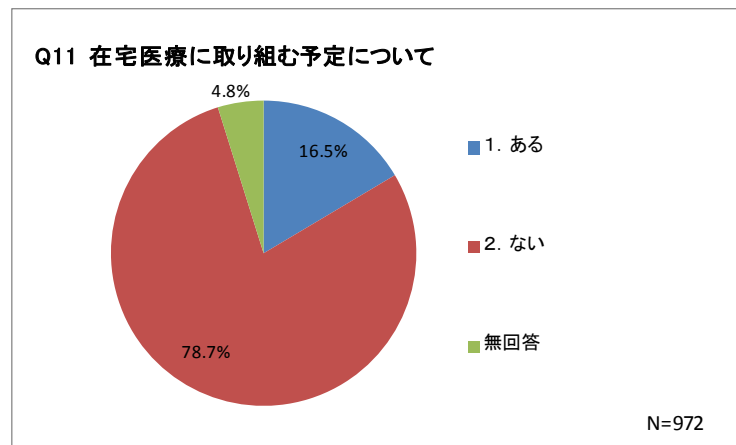
○在宅医療に取り組む予定について

Q11 【Q3で2と回答したところのみ】

今後、医療が必要となる高齢者がますます増加することが予想されますが、貴施設において、訪問診療や往診などの在宅医療に取り組む予定や、取り組みたいという意思はありますか。

ない場合は、その理由は何ですか。（自由記載）

対象数	972	
1. ある	160	16.5%
2. ない	765	78.7%
無回答	47	4.8%



在宅医療に取り組む予定や意思について、「ない」が78.7%、次いで「ある」が16.5%となった。

<取り組む予定・意思がない理由>

主な意見	件数
診療科が在宅医療になじまないため	121
高齢のため・体力に不安があるため	117
時間がない・余裕がないため	111
スタッフ・体制を確保できない	85
対象患者がない	36
その気がないため	29
時間外は対応できない	14
在宅医療の知識がない・専門外のため	4
自宅と診療所が離れているため	4

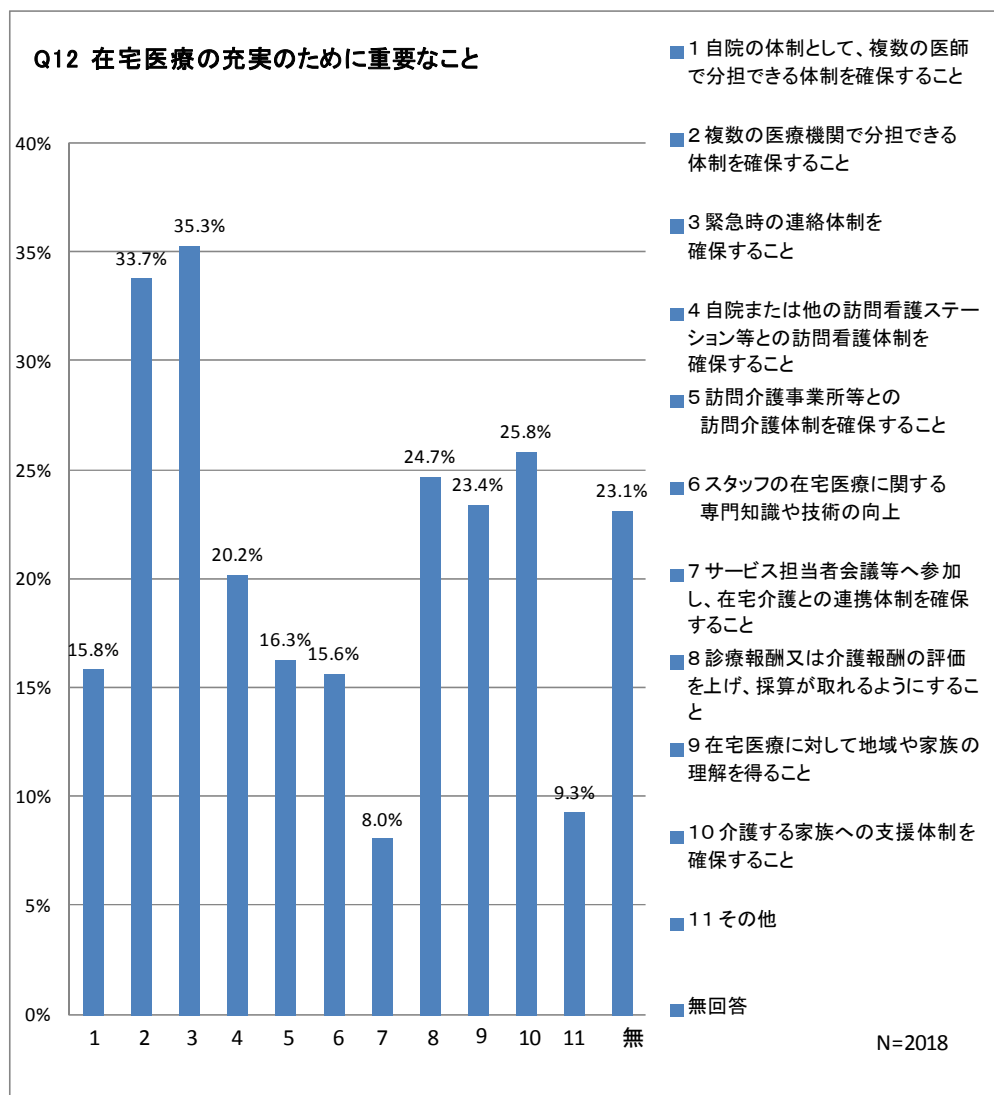
<主たる診療科系別クロス集計>

		内科系	小児科系	外科系	眼科系	耳鼻咽喉科系	泌尿器科・皮膚科系	産婦人科系	精神科系	その他	無回答
対象数	972件	298件	79件	123件	118件	84件	86件	64件	61件	2件	10件
1. ある	160件	26.8%	5.1%	15.4%	13.6%	9.5%	22.1%	4.7%	18.0%	0.0%	0.0%
2. ない	765件	73.2%	94.9%	84.6%	86.4%	90.5%	77.9%	95.3%	82.0%	100.0%	100.0%

○在宅医療の充実のために重要なこと

Q 1 2 今後、貴施設のある地域において、在宅医療をより充実させるために、重要と考えることは何ですか。（複数回答可）

対象数	2,018	
1 自院の体制として、複数の医師で分担できる体制を確保すること	319	15.8%
2 複数の医療機関で分担できる体制を確保すること	681	33.7%
3 緊急時の連絡体制を確保すること	712	35.3%
4 自院または他の訪問看護ステーション等との訪問看護体制を確保すること	407	20.2%
5 訪問介護事業所等との訪問介護体制を確保すること	328	16.3%
6 スタッフの在宅医療に関する専門知識や技術の向上	315	15.6%
7 サービス担当者会議等へ参加し、在宅介護との連携体制を確保すること	162	8.0%
8 診療報酬又は介護報酬の評価を上げ、採算が取れるようにすること	498	24.7%
9 在宅医療に対して地域や家族の理解を得ること	472	23.4%
10 介護する家族への支援体制を確保すること	521	25.8%
11 その他	187	9.3%
無回答	466	23.1%

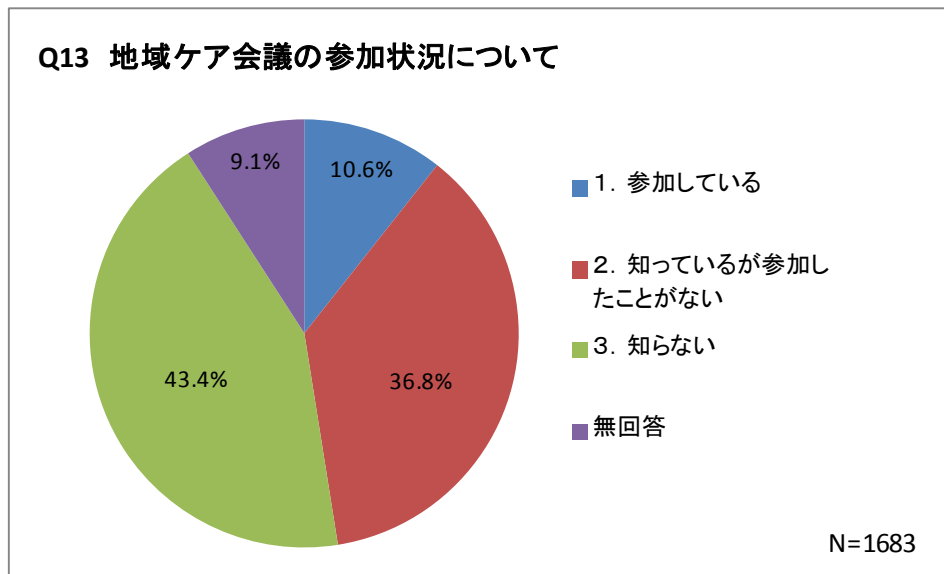


在宅医療の充実のために重要なことについて、「緊急時の連絡体制を確保すること」が35.3%、次いで「複数の医療機関で分担できる体制を確保すること」が33.7%、「介護する家族への支援体制を確保すること」が25.8%となった。

○地域ケア会議の参加状況について

Q13 地域包括支援センター等が開催する地域ケア会議（支援困難事例の検討や、地域の問題把握、支援体制整備のための会議）に参加していますか。

対象数	1,683	
1. 参加している	179	10.6%
2. 知っているが参加したことがない	620	36.8%
3. 知らない	731	43.4%
無回答	153	9.1%

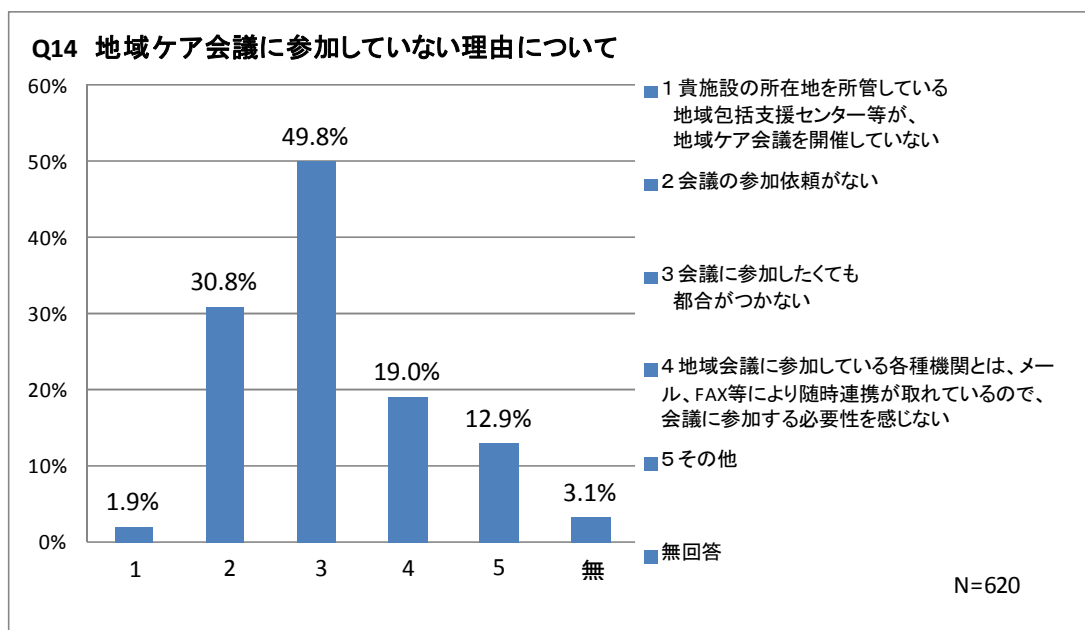


地域ケア会議については、「知らない」が43.4%、次いで「知っているが参加したことがない」が36.8%、「参加している」が10.6%となった。

Q14 【Q13で2と回答したところのみ】

地域ケア会議に参加していない理由は何ですか。（複数回答可）

対象数	620	
1 貴施設の所在地を所管している地域包括支援センター等が、地域ケア会議を開催していない	12	1.9%
2 会議の参加依頼がない	191	30.8%
3 会議に参加したくても都合が見つからない	309	49.8%
4 地域会議に参加している各種機関とは、メール、FAX等により随時連携が取れているので、会議に参加する必要性を感じない	118	19.0%
5 その他	80	12.9%
無回答	19	3.1%

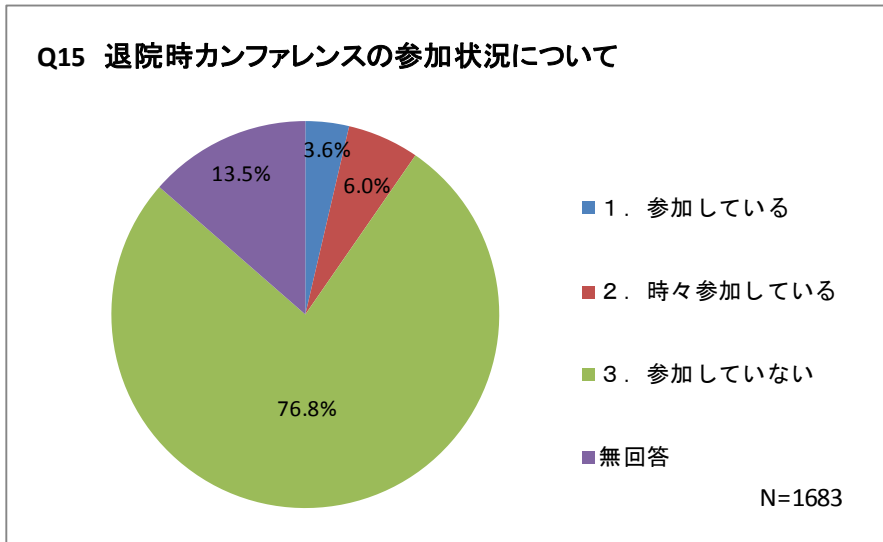


地域ケア会議に参加していない理由では、「会議に参加したくても都合が見つからない」が49.8%、次いで「会議の参加依頼がない」が30.8%、「地域会議に参加している各種機関とは、メール、FAX等により随時連携が取れているので、会議に参加する必要性を感じない」が19.0%となった。

○退院時カンファレンスの参加状況について

Q 15 退院時カンファレンスに参加していますか。

対象数	1,683	
1. 参加している	61	3.6%
2. 時々参加している	101	6.0%
3. 参加していない	1,293	76.8%
無回答	228	13.5%

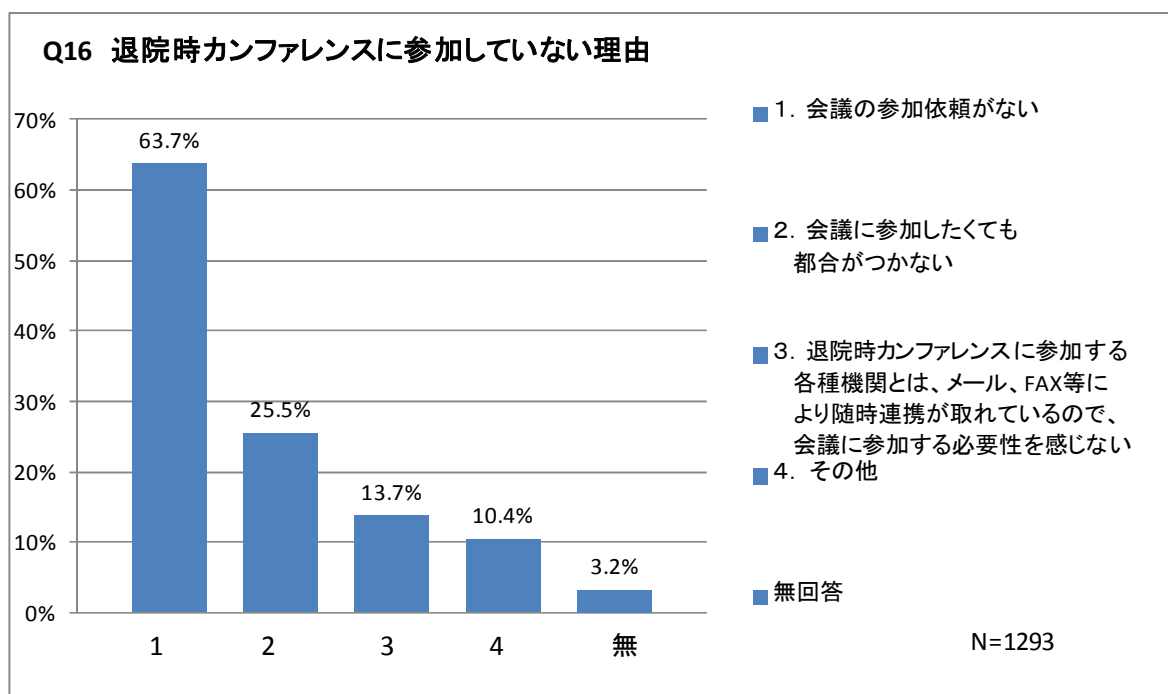


退院時カンファレンスについては、「参加していない」が76.8%、次いで「時々参加している」が6.0%、「参加している」が3.6%となった。

Q16 【Q15で3と回答したところのみ】

退院時カンファレンスに参加していない理由は何ですか。（複数回答可）

対象数	1,293	
1. 会議の参加依頼がない	823	63.7%
2. 会議に参加したくても都合が見つからない	330	25.5%
3. 退院時カンファレンスに参加する各種機関とは、メール、FAX等により随時連携が取れているので、会議に参加する必要性を感じない	177	13.7%
4. その他	135	10.4%
無回答	41	3.2%

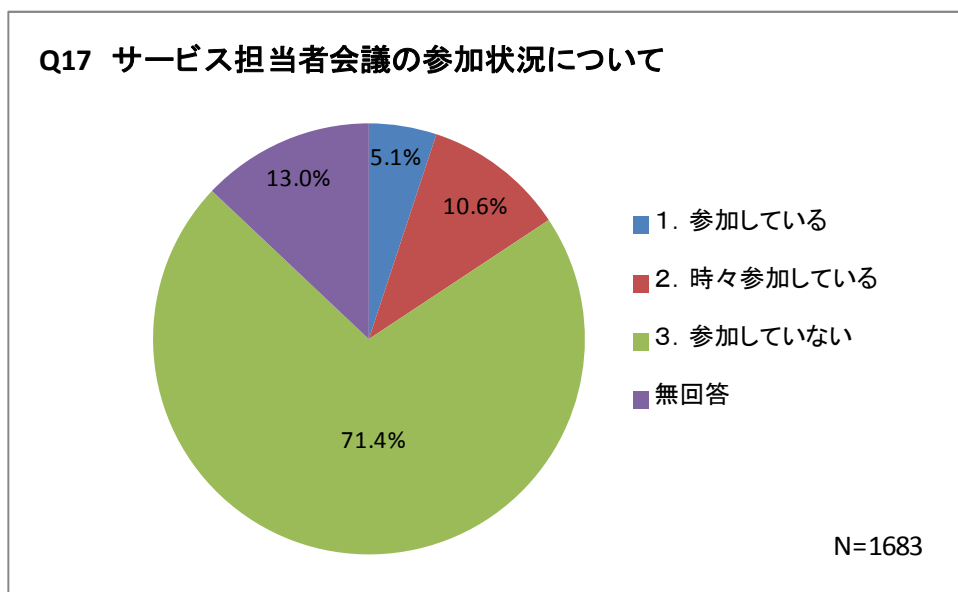


退院時カンファレンスに参加していない理由では、「会議の参加依頼がない」が63.7%、次いで「会議に参加したくても都合が見つからない」が25.5%、「退院時カンファレンスに参加する各種機関とは、メール、FAX等により随時連携が取れているので、会議に参加する必要性を感じない」が13.7%となった。

○サービス担当者会議の参加状況について

Q17 ケアマネジャーが主催するサービス担当者会議に参加していますか。

対象数	1,683	
1. 参加している	85	5.1%
2. 時々参加している	179	10.6%
3. 参加していない	1,201	71.4%
無回答	218	13.0%

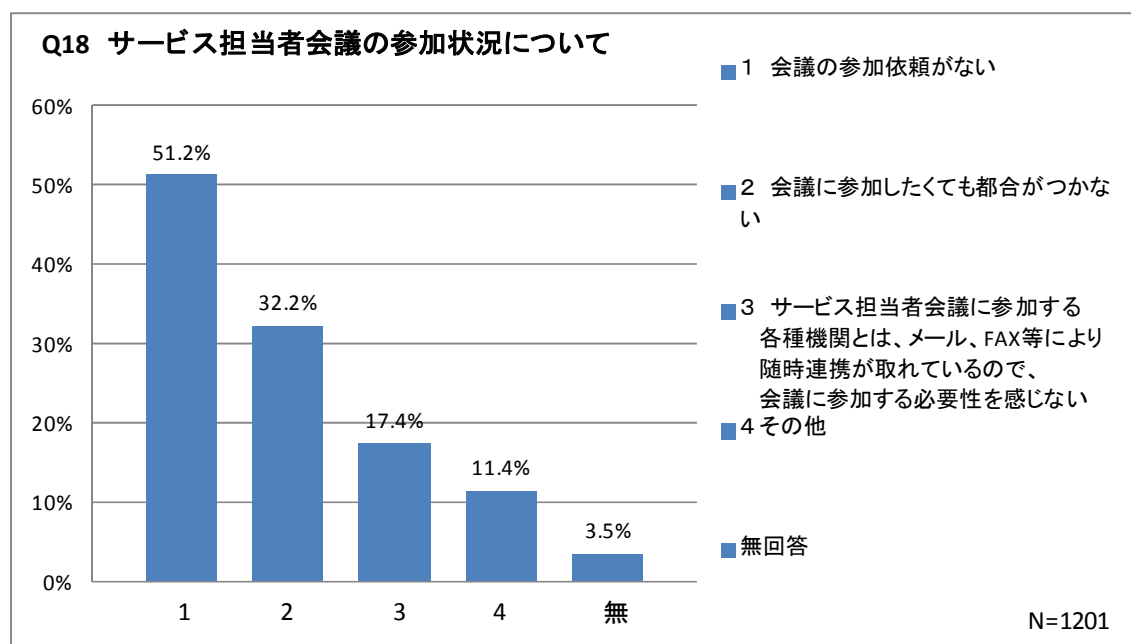


サービス担当者会議の参加状況では、「参加していない」が71.4%、「時々参加している」が10.6%、「参加している」が5.1%となった。

Q18 【Q17で3と回答したところのみ】

サービス担当者会議に参加していない理由は何ですか。（複数回答可）

対象数	1,201	
1 会議の参加依頼がない	615	51.2%
2 会議に参加したくても都合がつかない	387	32.2%
3 サービス担当者会議に参加する各種機関とは、メール、FAX等により随時連携が取れているので、会議に参加する必要性を感じない	209	17.4%
4 その他	137	11.4%
無回答	42	3.5%

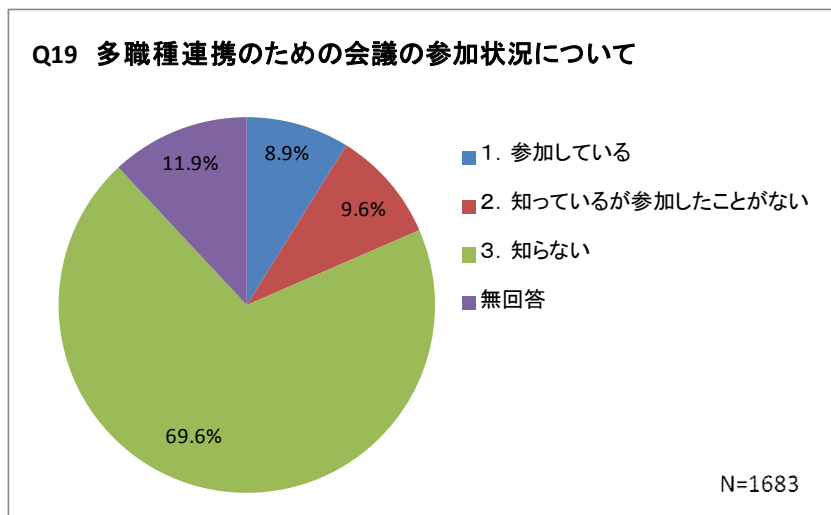


サービス担当者会議の参加していない理由では、「会議の参加依頼がない」が 51.2%、次いで「会議に参加したくても都合がつかない」が 32.2%、「サービス担当者会議に参加する各種機関とは、メール、FAX 等により随時連携が取れているので、会議に参加する必要性を感じない」が 17.4%となった。

○多職種連携のための会議の参加状況について

Q19 地域ケア会議、退院時カンファレンス、サービス担当者会議の他に、地域において、関係機関・多職種が連携・協議するための会議等の場を知っていますか。また、そういった場に参加していますか。

対象数	1,683	
1. 参加している	149	8.9%
2. 知っているが参加したことがない	162	9.6%
3. 知らない	1,171	69.6%
無回答	201	11.9%



多職種連携のための会議の参加状況では、「知らない」が69.6%、次いで「知っているが参加したことがない」が9.6%、「参加している」が8.9%となった。

Q20【Q19で1, 2と回答したところのみ】

地域において、関係機関・多職種が連携・協議するための会議の概要を教えてください。

156の会議等（事例検討会、意見交換会、講演・研修等）について情報提供があった。これを主催者ごとに区分すると、内訳は以下のとおりであった。

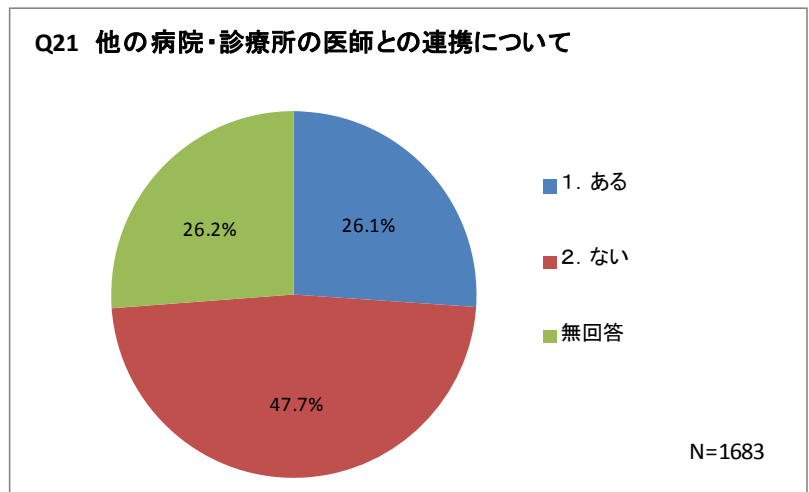
主な主催者	件数
病院・診療所	42
地区医師会	30
行政	21
地域包括支援センター	13
居宅介護支援事業所・ケアマネジャー	13
複数機関の集合体(会議体)	8
社会福祉協議会	5
その他・不明	24

○医療と介護の連携の現状・課題について

Q21 医療と介護のサービスを、患者にとってより使いやすく、より効果的にしていくためには、医療と介護の連携が不可欠であると思われませんが、他の病院・診療所の医師との連携で、困難と感じていることはありますか。

- 1 ある →具体的に、どんなことについて困難と感じていますか。（自由記載）
- 2 ない →うまく連携するために工夫していることがあれば記入してください。（自由記載）

対象数	1,683	
1. ある	439	26.1%
2. ない	803	47.7%
無回答	441	26.2%



他の病院・診療所の医師との連携で、困難と感じていることでは、「ない」が47.7%、「ある」が26.1%となった。

<困難と感じている具体的内容>

主な意見	件数
時間がないこと	63
緊急時の対応が円滑にいかないこと	45
治療方針・考え方が違うこと	41
情報の共有が困難なこと	40
普段から交流がないため	40
患者の取り合いになるため	18
在宅に対する理解がないこと	13
責任の所在が不明確なこと	8
資源(病床・スタッフ)が不足していること	6

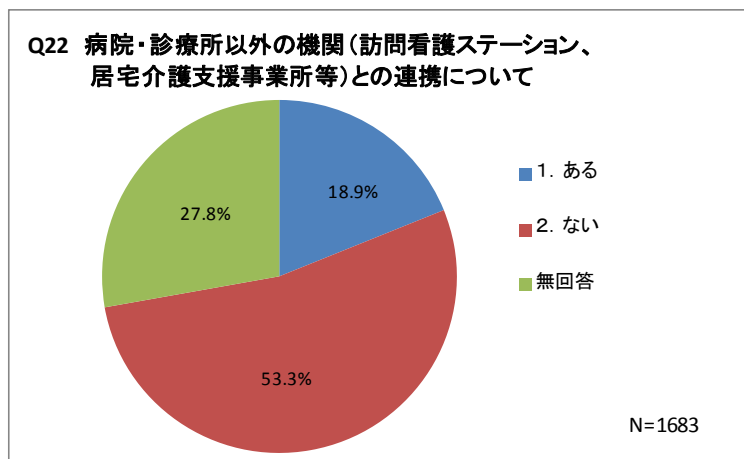
<連携するために工夫していること>

主な意見	件数
日ごろから会議等に参加しコミュニケーションをとるようにしている	51
正確・詳細な情報提供に努めている	32
病診連携室等を活用している	14
定期的なカンファレンスを実施している	8
ケアマネ等に間に入ってもらう	8
その他	29
特になし	81

Q22 病院・診療所以外の機関（訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所等）との連携で、困難と感じていることはありますか。

- 1 ある →具体的に、どんなことについて困難と感じていますか。（自由記載）
 2 ない →うまく連携するために工夫していることがあれば記入してください。（自由記載）

対象数	1,683	
1. ある	318	18.9%
2. ない	897	53.3%
無回答	468	27.8%



病院・診療所以外の機関（訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所等）との連携で、困難と感じていることでは、「ない」が53.3%、「ある」が18.9%となった。

<困難と感じている具体的内容>

主な意見	件数
情報の共有ができていない(情報が入ってこない)こと	46
時間がとれないこと	44
事業所やスタッフの質に差があること	35
コミュニケーションが取れない(連絡、面識がない)こと	34
ケアマネ等の医療知識が不足していること	24
夜間・休日に対応できる事業所が少ないこと	15
各職種で考え方が違い統一できないこと	9

<連携するために工夫していること>

主な意見	件数
TEL・FAX・メールを活用している	43
積極的にコミュニケーションをとっている	27
相手を尊重している	12
正確・詳細な情報提供等に努めている	9
同一法人等の事業所を利用している	7
患者宅や事業所に直接出向いて会っている	5
その他(定期的な会議等の開催、連絡網の構築、連絡の時間帯の設定、情報の共有ツールの活用等)	31

Q23 医療と介護の連携において、医師以外の職種の方にどんなことを期待しますか。
また、その他今後の展望や要望等があれば記入してください。(自由記載)

<医師以外の職種に期待すること>

主な意見	件数
医師とコミュニケーションを取り連携すること、 医師に情報提供や意見をすること	48
医療知識の向上、胃瘻現場への理解の向上	29
患者や家族の理解や知識の向上	23
多職種・他機関の連携、情報の共有	21
患者・利用者本位の姿勢をもつこと、営利主義でないこと	16
ケアマネジャーの資質向上等	16
各職種の役割分担の強化・専門性の発揮	9
介護職の質の向上	8
インフォーマルサービスの活用等	3
他の職種とのコミュニケーション能力の向上	3
行政機関の積極的なかわり	2

<今後の展望や要望等>

主な意見	件数
看護師、介護職、ケアマネジャー等の人材確保	14
在宅医療実施機関への支援体制の充実、負担の軽減	5
独居高齢者等への対応の検討等	4
患者情報を共有するシステムの構築	2
ホームヘルパーが可能な医療行為の拡大	2